

りんご高密度植栽培の特性 ～定植5年目まで～

高密度植栽培は労働生産性が高い栽培方法と期待されていますが、青森県で栽培した場合の特性は明らかになっていません。今回、本県における定植5年目までの特性が明らかになったので紹介します。

耕種概要

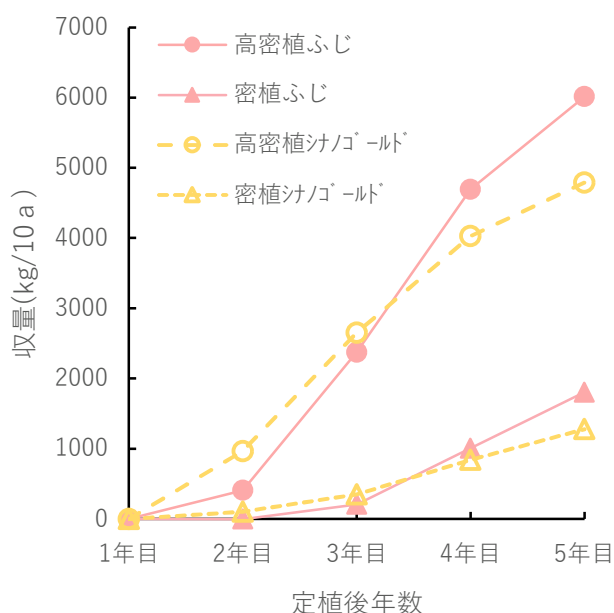
品 種：「ふじ」「シナノゴールド」／M.9T337
 栽植距離：【高密度植栽培】列間3m×樹間1m(333本／10a)
 【密植栽培(対照)】列間4m×樹間2m(125本／10a)
 ※密植栽培は従来のわい化栽培



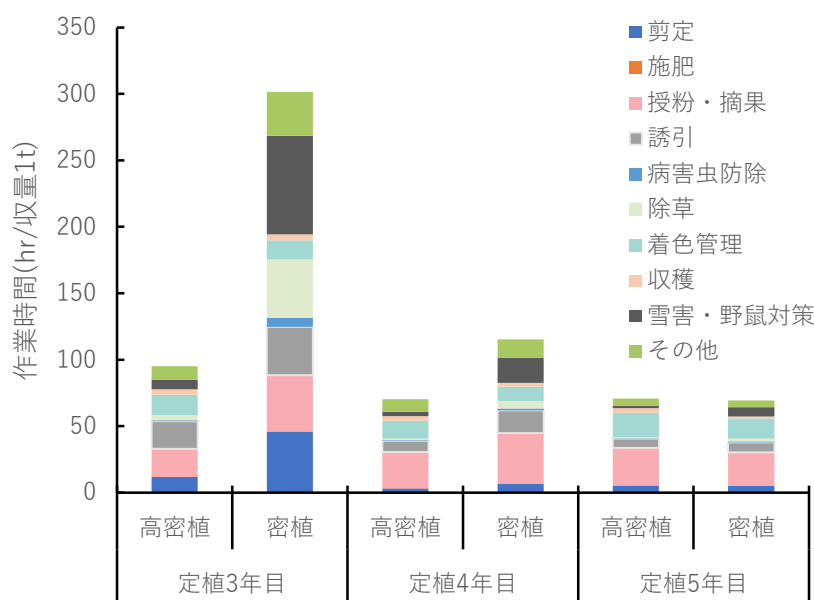
定植5年目の様子

密植栽培と比較した特性

- フェザー苗木を用いるため、樹冠の拡大が早く、定植3年目には目標の樹高（4m）や樹幅に到達します。
- また、定植2年目から着果させることができ、早期多収です。
 10a当たりの収量は、定植2年目が0.5～1t、3年目が2.5t、4年目が4～4.5t、5年目が5～6tでした。
- 糖度が14%以上で十分に着色した高品質な果実生産が可能です。
- 開花数や収穫量が多いため10a当たりの作業時間は多くなりますが、収量当たりの作業時間は同等～少なくなります。
- 定植4年目から単年度収支が黒字に転じ、密植栽培よりも初期の収益性が高いと考えられました。
- 雪害は、枝がしなりやすい「ふじ」では雪害対策を実施しなくても少ないですが、枝がしなりにくい「シナノゴールド」では雪害が発生しやすいため、融雪促進剤等の対策を積極的に行う必要があります。



10a当たり収量の推移



収量当たりの作業時間（ふじ）

(注) 1 摘花・摘果剤、高所作業台車未使用
 2 作業項目の「その他」は主幹結束や側枝誘引資材の回収等

栽培上の留意点

- M.9台木は湿害及び凍害に弱く、特に排水不良園では被害を受けやすいため、排水対策や白塗剤等による凍害対策を実施する必要があります。
- 高密度植栽培に用いるフェザー苗木は養成に1～2年かかるため、計画的に予約注文をして下さい。最寄りのJAや種苗会社で入手することができます。

お問い合わせ りんご研究所 栽培部 (TEL 0172-52-2333)

詳細は、令和6年度参考となる研究成果「りんご高密度植栽培の特性～定植5年目まで～」
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R6-ks1.pdf>をご参照ください